

**(5) 機関リポジトリについて考えよう！アーカイビングポリシーデータベース連携と制限公開からみる将来像**

Slidoでいただいた質問のうち、当日回答できなかったものについて以下の通り、まとめます。

質問内容	回答
河合先生：更新を分担して行くと、更新頻度は上がるかもしれませんが機関や担当により精度にはばらつきが出るかもしれません。そうするとSherpa/romeoと同じく信頼性がなく結局調べなおしの手間がかかります。外注や非常勤の雇用による更新もご検討ください。	精度が安定することだけではなく、図書館員の方の時間を割かずに済むことも外注のメリットかと思えます。一方で、更新経費が高むことがデメリットとして挙げられ、この点を考慮し、分担して更新する方法を提案させていただきました。維持運用方法については、JPCOARのワークフローチームで議論する予定です。
河合先生：今後アーカイビングポリシーDBの維持運用方法についてはどのように決定していくのでしょうか、意思決定プロセスを教えてください。	維持運用方法については、JPCOARのワークフローチームで議論する予定です。コミュニティの要望をできるだけ反映したかたちの方法にできればと考えております。
朝岡先生：制限公開機能についてデータ提供のワークフローを機関独自で設計できますか？	簡単な設計（例えば、二段階利用申請の管理者による承認とコンテンツ所有者による承認の順番を入れ替える、管理者による承認、利用報告をオミットする）はできますが、複雑な設計となると新たな開発が必要です。例えば、大阪商業大学様は利用者が学生の場合、指導教員による承認機能を追加しておりますが、ユーザーアカウントの運用方法も含めて設計が必要となります。 asaoka@nii.ac.jpにご連絡いただき、ご相談の機会を設けさせていただきますと幸いです。